

第4章 ごみ・資源物量

1 収集の状況とリサイクル率

(1) 収集量・持込量の年度別実績 (表 4-1)

単位 [t]

区 分		平成26年度 (2014年度)	平成27年度 (2015年度)	平成28年度 (2016年度)	平成29年度 (2017年度)	平成30年度 (2018年度)
①収集人口[人] (10月1日現在)		562,940	562,781	563,327	563,538	562,522
収 集 量	② 可燃ごみ	83,236	84,823	85,216	83,592	83,295
	③ 不燃ごみ	5,836	5,433	5,190	5,040	4,573
	④ 粗大ごみ	2,215	2,261	2,373	2,120	2,282
	⑤ 有害ごみ	213	345	372	337	345
	⑥ 資源物	32,553	32,556	31,608	31,136	30,933
	⑦ 不法投棄ごみ	31	23	24	16	22
	⑧ 側溝清掃ごみ	164	106	108	104	119
	計	124,248	125,547	124,891	122,345	121,569
持 込 量	⑨ 事業系可燃ごみ	33,226	29,574	27,725	26,427	25,121
	⑩ 家庭系可燃ごみ	3,225	2,489	2,359	2,061	1,787
	⑪ 家庭系不燃ごみ	1,437	967	883	865	772
	⑫ 拠点資源物	1,178	1,126	546	482	436
	計	39,066	34,156	31,513	29,835	28,116
合 計		163,314	159,703	156,404	152,180	149,685
資源集団回収量		8,267	8,226	7,901	7,615	7,301
総 ご み 量		171,581	167,929	164,305	159,795	156,986

単位 [g/(人・日)]

原 単 位 (収 集 量 ま た は 持 込 量 / ①/ 3 6 5 日 ま た は 3 6 6 日)	収 集 量	可燃ごみ	405	412	414	406	406
		不燃ごみ	28	26	25	25	22
		粗大ごみ	11	11	12	10	11
		有害ごみ	1	2	2	2	2
		資源物	159	158	154	151	150
		不法投棄・側溝清掃	1	1	1	1	1
		計	605	610	608	595	592
	持 込 量	事業系可燃ごみ	162	143	135	129	122
		家庭系可燃ごみ	15	12	11	10	9
		家庭系不燃ごみ	7	5	4	4	4
		拠点資源物	6	5	3	2	2
		計	190	165	153	145	137
	合 計		795	775	761	740	729
	資源集団回収量		40	40	38	37	36
総 ご み 量		835	815	799	777	765	

※収集人口には外国人登録者数を含む。

※平成26年度(2014年度)から平成27年度(2015年度)の拠点資源物には、本庁及び学校の紙資源を含む。

(2) 資源物の戸別回収状況 (表 4-2)

単位 [t]

区 分		平成26年度 (2014年度)	平成27年度 (2015年度)	平成28年度 (2016年度)	平成29年度 (2017年度)	平成30年度 (2018年度)
古 紙	新 聞	2,204	2,029	1,829	1,674	1,452
	ダ ン ボ ー ル	4,020	4,097	4,122	4,132	4,186
	雑 誌 ・ 雑 紙	10,167	10,092	9,520	9,147	9,164
	紙 パ ッ ク	132	118	118	118	115
	計	16,523	16,336	15,589	15,071	14,917
空 き び ん (サ)		4,433	4,453	4,330	4,238	4,057
空 き 缶		1,511	1,495	1,452	1,413	1,394
古 着 ・ 古 布		2,343	2,439	2,380	2,412	2,463
容器包装プラスチック		5,793	5,854	5,853	5,967	6,025
ペ ッ ト ボ ト ル		1,950	1,979	2,004	2,035	2,059
剪 定 枝 (シ)		—	—	—	—	18
合 計 ⑥		32,553	32,556	31,608	31,136	30,933

(3) 資源物の拠点回収状況 (表 4-3)

単位 [t]

区 分	平成26年度 (2014年度)	平成27年度 (2015年度)	平成28年度 (2016年度)	平成29年度 (2017年度)	平成30年度 (2018年度)
新 聞	56	37	24	22	15
ダ ン ボ ー ル	264	256	179	151	136
雑 誌 ・ 雑 紙	853	828	339	306	281
紙 パ ッ ク	1	1	1	(0.5 未満)	1
は が き (ス)	4	4	3	3	3
上 履 き ・ 靴	—	—	(0.5 未満)	(0.5 未満)	(0.5 未満)
合 計 ⑫	1,178	1,126	546	482	436

※雑誌・雑紙にはシュレッダー紙を含む。

※平成26年度(2014年度)から平成27年度(2015年度)には、本庁及び学校の紙資源を含む。

(4) 資源集団回収状況 (表 4-4)

単位 [t]

区 分	平成26年度 (2014年度)	平成27年度 (2015年度)	平成28年度 (2016年度)	平成29年度 (2017年度)	平成30年度 (2018年度)
新 聞	3,774	3,607	3,260	3,011	2,688
ダ ン ボ ー ル	1,293	1,360	1,393	1,382	1,388
雑 誌 ・ 雑 紙	2,525	2,559	2,531	2,501	2,501
紙 パ ッ ク	77	80	81	81	81
生 き び ん	6	5	6	6	6
雑 び ん	55	53	59	60	55
ス チ ー ル 缶	36	38	39	40	41
ア ル ミ 缶	165	169	169	167	168
古 着 ・ 古 布	330	346	355	358	365
金 属 く ず	6	9	8	9	8
計	8,267	8,226	7,901	7,615	7,301
補 助 金 額 [円]	63,796,718	63,577,360	61,473,707	59,450,569	57,170,374
団 体 数 [団体]	392	390	388	388	389

(5) 資源化量の年度別実績 (表 4-5)

単位 [kg]

区 分		平成26年度 (2014年度)	平成27年度 (2015年度)	平成28年度 (2016年度)	平成29年度 (2017年度)	平成30年度 (2018年度)	
⑬	新聞	2,203,890	2,028,930	1,828,650	1,674,090	1,451,820	
	ダンボール	4,019,610	4,096,560	4,122,410	4,132,320	4,185,840	
	雑誌・雑紙	10,167,310	10,092,470	9,519,650	9,146,730	9,163,990	
	紙バック	131,860	118,180	117,620	117,600	115,320	
	空きびん	4,337,940	4,360,670	4,171,320	4,040,110	3,884,490	
	スチール缶	861,540	813,600	759,315	700,070	672,600	
	アルミ缶	538,495	578,155	590,685	612,170	626,170	
	古着・古布	2,343,130	2,438,990	2,379,650	2,412,000	2,463,530	
	容器包装プラスチック	5,002,790	5,029,140	5,005,380	5,037,760	5,146,730	
	ペットボトル	1,550,950	1,590,310	1,636,240	1,612,100	1,696,310	
	容ブラ・ペットボトル残渣	—	—	—	29,220	1,760	
剪定枝	—	—	—	—	17,670		
計		31,157,515	31,147,005	30,130,920	29,514,170	29,426,230	
⑭	拠点資源物						
	古紙	1,177,900	1,126,130	546,550	482,320	435,650	
	はがき	(3,760)	(3,860)	(3,320)	(3,160)	(2,730)	
	上履き・靴	—	—	100	100	280	
計		1,177,900	1,126,130	546,650	482,420	435,930	
⑮	戸吹清掃工場	鉄	415,220	435,100	414,920	330,940	367,050
		焼却灰	8,330,240	7,673,840	7,327,320	6,875,630	6,500,400
		小 計	8,745,460	8,108,940	7,742,240	7,206,570	6,867,450
	北野清掃工場	鉄	53,000	61,380	52,260	56,940	53,390
		焼却灰	2,701,620	2,760,000	2,597,330	2,659,300	2,598,790
		小 計	2,754,620	2,821,380	2,649,590	2,716,240	2,652,180
	戸吹不燃物 処理センター	鉄	1,732,910	1,295,850	1,154,240	1,012,610	1,195,610
		非鉄金属	143,890	266,950	292,460	268,620	297,200
		自転車	152,850	156,660	143,090	145,130	144,270
		小型家電	497,150	658,350	727,570	743,120	162,480
		基板等	—	—	—	—	4,050
		2次乾電池	1,130	1,170	—	—	—
		スプレー缶等	37,020	105,150	129,950	132,320	132,800
		雑線	—	31,540	15,240	47,990	44,550
		ガラス陶磁器	—	98,190	179,850	150,930	124,760
		傘等	—	—	77,010	74,420	77,370
		フロン回収品	—	—	5,330	7,160	5,690
		不燃残渣	—	—	—	5,300	44,320
		その他	—	42,000	44,290	36,750	53,520
		小 計	2,564,950	2,655,860	2,769,030	2,624,350	2,286,620
	粗大再生品		117,696	113,805	82,852	77,148	72,616
		乾電池・蛍光管	59,521	80,037	81,500	84,430	168,830
	中 計	2,742,167	2,849,702	2,933,382	2,785,928	2,528,066	
	プラスチック 資源化センター	容器包装ブラ	(5,002,790)	(5,029,140)	(5,005,380)	(5,037,760)	(5,146,730)
		ペットボトル	(1,550,950)	(1,590,310)	(1,636,240)	(1,612,100)	(1,696,310)
		容ブラ・ペット残渣	—	—	—	(29,220)	(1,760)
		小 計	(6,553,740)	(6,619,450)	(6,641,620)	(6,679,080)	(6,844,800)
多摩清掃工場	鉄	172,020	149,450	159,070	139,250	167,670	
	非磁性物	32,290	25,810	39,320	41,800	42,040	
	焼却灰	3,117,470	2,785,760	3,070,600	3,100,780	3,300,980	
	小 計	3,321,780	2,961,020	3,268,990	3,281,830	3,510,690	
多摩清掃工場 不燃・粗大 処理施設	鉄	517,540	443,690	420,140	415,870	447,430	
	非鉄金属	43,070	35,570	30,950	32,260	34,340	
	自転車	6,910	10,070	7,450	3,930	3,310	
	基板等	380	600	520	210	250	
	家具・羽毛布団・CD	—	—	820	5,120	7,490	
	フロン回収品	—	2,080	2,710	2,420	2,320	
	その他	—	70	1,340	—	1,010	
	小 計	567,900	492,080	463,930	459,810	496,150	
乾電池・蛍光管	—	33,700	35,220	31,110	37,780		
中 計	567,900	525,780	499,150	490,920	533,930		
計	18,131,927	17,266,822	17,093,352	16,481,488	16,092,316		
⑯ 資源化量	⑬+⑭+⑮	50,467,342	49,539,957	47,770,922	46,478,078	45,954,476	
⑰ 資源集団回収量		8,267,121	8,226,110	7,900,590	7,614,913	7,300,684	
総資源化量	⑯+⑰	58,734,463	57,766,067	55,671,512	54,092,991	53,255,160	

※戸吹不燃物処理センター

- 鉄……………処理困難鉄、処理磁性
- 非鉄金属……………アルミ等、選別金属
- 基板等……………小型家電由来の電子回路基板、携帯電話
- スプレー缶等……………スプレー缶、ライター、炭酸ガスボンベ
- その他……………コンクリートブロック、バッテリー、バイクなど、不法投棄ごみ等からの資源物

※多摩清掃工場不燃・粗大処理施設

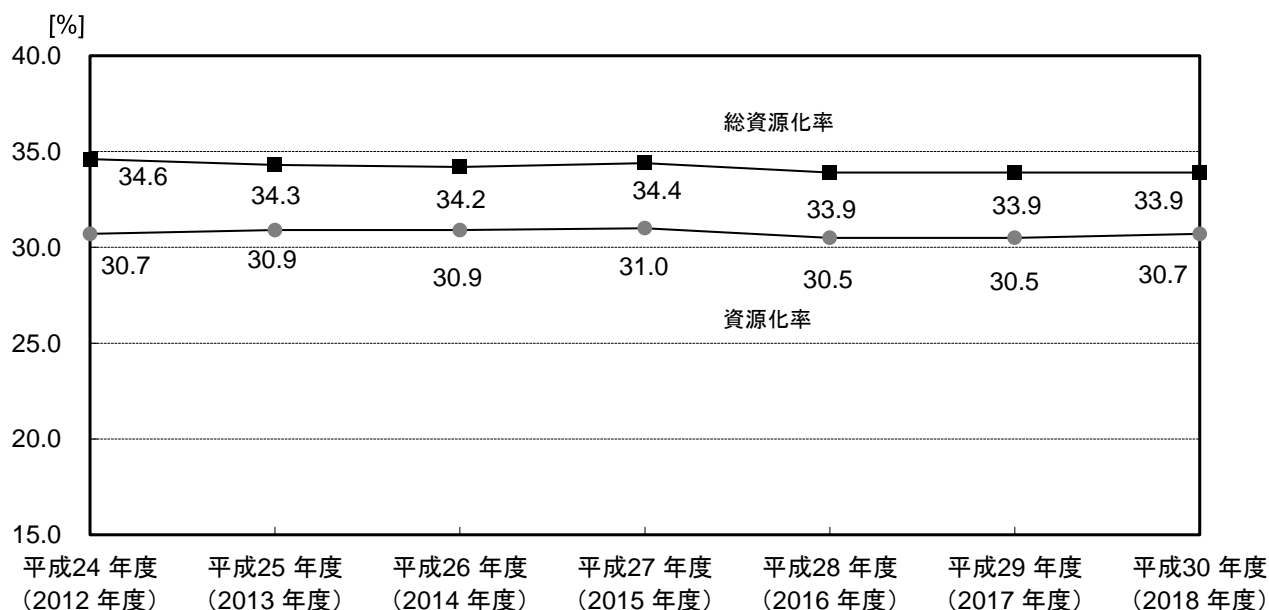
- 鉄……………鉄類（処理後のスプレー缶分も含む）
- 非鉄金属……………アルミ類（処理後のスプレー缶分も含む）、銅管
- 基板等……………小型家電由来の電子回路基板、携帯電話
- その他……………バッテリー、消火器など、不法投棄ごみ等からの資源物

(6) 収集量・持込量と資源化量 (表 4-6)

単位 [t]

区 分	平成26年度 (2014年度)	平成27年度 (2015年度)	平成28年度 (2016年度)	平成29年度 (2017年度)	平成30年度 (2018年度)
A 収集ごみ量 ②+③+④+⑤+⑦+⑧	91,695	92,991	93,283	91,209	90,636
B 持込ごみ量 ⑨+⑩+⑪	37,888	33,030	30,967	29,353	27,680
C 収集・持込資源物回収量 ⑥+⑫	33,731	33,682	32,154	31,618	31,369
D 収集・持込資源物源化量 ⑬+⑭	32,335	32,273	30,677	29,996	29,862
E 中間処理後の資源化量 ⑮	18,132	17,267	17,094	16,482	16,092
F 資源集団回収量 ⑰	8,267	8,226	7,901	7,615	7,301
G ごみ量 A+B+C	163,314	159,703	156,404	152,180	149,685
H 総ごみ量 A+B+C+F	171,581	167,929	164,305	159,795	156,986
I 資源化量 D+E	50,467	49,540	47,771	46,478	45,954
J 総資源化量 D+E+F	58,734	57,766	55,672	54,093	53,255

(7) 総資源化率及び資源化率の推移 (図 4-1)



※総資源化率及び資源化率の算出方法

$$\text{総資源化率} [\%] = \frac{\text{総資源化量 J}}{\text{総ごみ量 H}} = \frac{\text{資源物資源化量 D} + \text{中間処理後の資源化量 E} + \text{資源集団回収量 F}}{\text{収集ごみ量 A} + \text{持込ごみ量 B} + \text{資源物回収量 C} + \text{資源集団回収量 F}}$$

$$\text{資源化率} [\%] = \frac{\text{資源化量 I}}{\text{ごみ量 G}} = \frac{\text{資源物資源化量 D} + \text{中間処理後の資源化量 E}}{\text{収集ごみ量 A} + \text{持込ごみ量 B} + \text{資源物回収量 C}}$$

2 各種データ

(1) 収集量・持込量の施設別搬入実績（平成30年度（2018年度））（表4-7）

単位 [t]

区 分		搬 入 先							計
		焼 却 施 設			不燃・粗大処理施設		資 源 化 施 設		
		戸吹清掃工	北野清掃工	多摩清掃工	戸吹不燃物処 センター	多摩清掃工	プラスチック資源化 センター	資源物選 別施設	
収 集	可燃ごみ	35,563	22,369	25,363					83,295
	不燃ごみ				3,742	831			4,573
	粗大ごみ	811	2		829	640			2,282
	有害ごみ				285	60			345
	資源物						8,084	22,849	30,933
	不法投棄ごみ	15			4	3			22
	側溝清掃ごみ	68	51						119
持 込	可燃ごみ	23,910	432	2,566					26,908
	不燃ごみ				526	246			772
	拠点資源物							436	436
計		60,367	22,854	27,929	5,386	1,780	8,084	23,285	149,685

(2) 施設別総搬入実績（平成30年度（2018年度））（表4-8）

単位 [t]

区 分		搬 入 先							計
		焼 却 施 設			不燃・粗大処理施設		資 源 化 施 設		
		戸吹清掃工	北野清掃工	多摩清掃工	戸吹不燃物処 センター	多摩清掃工	プラスチック資源化 センター	資源物選 別施設	
収集・持込ごみ		60,367	22,854	27,929	5,386	1,780	8,084	23,285	149,685
選 別 物		3,764		1,333	53				5,150
計		(ア) 64,131	(イ) 22,854	(ウ) 29,262	(エ) 5,439	(オ) 1,780	(カ) 8,084	(キ) 23,285	154,835

(3) 焼却施設の実績（平成30年度（2018年度））（表4-9）

単位 [t]

区 分		戸吹清掃工場	北野清掃工場	多摩清掃工場	計
稼働日数 [日]		324	306	336	—
搬入量 (焼却量)		64,131 (60,193)	22,854 (23,697)	29,262 (29,116)	116,247 (113,006)
焼却残灰	エコセメント	6,441	2,599	3,204	(ク) 12,244
	溶融固化物	59	—	97	156
金属分		367	53	210	630
埋立		—	—	—	—
その他		—	1	—	1
搬出量		6,867	2,653	3,511	13,031
うち資源化量		6,867	2,652	3,511	13,030

※焼却残灰は全量資源化されている。

※その他は北野清掃工場に搬入されたごみのうち、積替輸送され、戸吹不燃物処理センターで処理されたごみをいう。

(4) 不燃・粗大処理施設の実績（平成30年度（2018年度））（表4-10）

単位 [t]

区 分		戸吹不燃物 処理センター	多摩清掃工場	計
稼働日数 [日]		214	204	—
搬入量		5,439	1,780	7,219
有価物		1,854	494	2,348
非有価物 (乾電池・蛍光管委託処理)		604 (168)	40 (38)	644 (206)
埋立		—	—	(コ) —
可燃物 (粗大ごみ由来の可燃物)		2,858 (73)	1,075 —	3,933 (73)
搬出量		5,316	1,609	6,925
うち資源化量		2,528	534	3,062

※（ ）は内数を表す。

※搬入量と搬出量は、蒸発や一時保管等の理由で一致しない場合がある。

※資源化量には、搬出した可燃物が焼却処理後に資源化される量を含まない。

※資源化量に粗大再生品、乾電池・蛍光管の資源化された量を含む。

(5) プラスチック資源化センターの実績（平成30年度（2018年度））（表4-11）

単位 [t]

区 分		容器包装 プラスチック	ペットボトル	計
稼働日数 [日]		256	256	—
搬入量		6,025	2,059	8,084
再商品化量		5,147	1,696	6,843
可燃物	焼却	—	—	1,180
	資源化	—	—	2
不燃物		—	—	7
搬出量		—	—	8,032
うち資源化量		—	—	6,845

※搬入量と搬出量は、蒸発や一時保管等の理由で一致しない場合がある。

※可燃物と不燃物は合わせて搬出しているため合計値のみを記載する。

※可燃物の一部は資源化し、残りは戸吹清掃工場で焼却処理する。

※不燃物は戸吹不燃物処理センターで選別処理する。

※資源化量には、戸吹清掃工場と戸吹不燃物処理センターで処理され資源化される量を含まない。

(6) ニツ塚最終処分場・エコセメント化施設年度別実績（表 4-12）

区 分		平成26年度 (2014年度)	平成27年度 (2015年度)	平成28年度 (2016年度)	平成29年度 (2017年度)	平成30年度 (2018年度)
不 燃	埋立重量 [t]	334	86	60	40	0
	埋立容量 [m ³]	354	88	61	40	0
残 渣	搬入配分量 [m ³]	227	248	268	144	103
	搬入配分貢献量 [m ³]	-127	160	207	104	103
焼 却	埋立重量 [t]	—	—	—	—	—
	埋立容量 [m ³]	—	—	—	—	—
残 渣	エコセメント化 施設搬入量 [t]	14,149	13,220	12,945	12,519	12,244
	搬入配分量 [t]	11,104	11,060	11,124	10,658	11,178
	搬入配分貢献量 [t]	-3,045	-2,160	-1,821	-1,861	-1,066

※平成7年（1995年）3月から平成10年（1998年）4月までは谷戸沢処分場へ、それ以降はニツ塚処分場へ搬入している。

※搬入配分量とは東京たま広域資源循環組合が各組織団体に対して年度ごとに設定している廃棄物搬入量の目標値のことをいう。

※搬入配分貢献量とは搬入配分量から搬入実績量を差し引いたものをいう。

(7) 最終処分場搬入実績累積量（表 4-13）

谷戸沢処分場搬入実績累積量 (平成6年度(1994年度)～平成10年度(1998年度))	68,926 m ³
ニツ塚処分場搬入実績累積量 (平成9年度(1997年度)～平成30年度(2018年度))	182,575 m ³
エコセメント化施設搬入実績累積量 (平成18年度(2006年度)～平成30年度(2018年度))	147,351 t

3 ごみ処理基本計画進捗状況

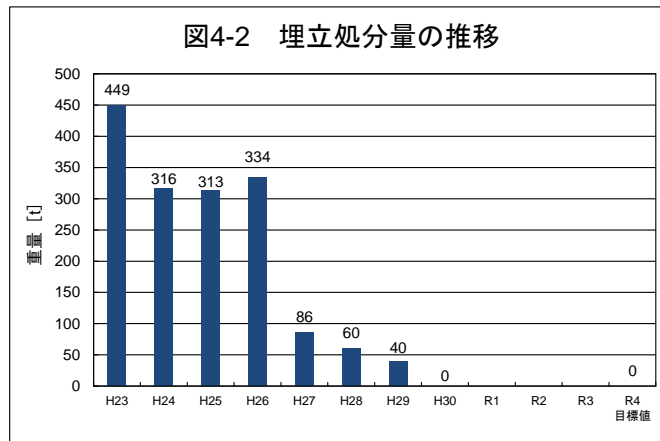
(1) ごみ処理基本計画概要

本市では、平成19年(2007年)3月に策定したごみ処理基本計画の見直しを行い、平成25年(2013年)3月に新たに「八王子市ごみ処理基本計画『循環型都市八王子プラン』」を策定した。本計画は、10年後の将来を見据えて市民及び事業者と市が自らの行動を継続的に取り組むための具体的な行動計画を示すもので、計画期間を平成25年度(2013年度)～令和4年度(2022年度)までの10年間とし、平成29年度(2017年度)を中間目標年度・令和4年度(2022年度)を目標年度とする。

(2) 計画の目標値と平成30年度(2018年度)実績

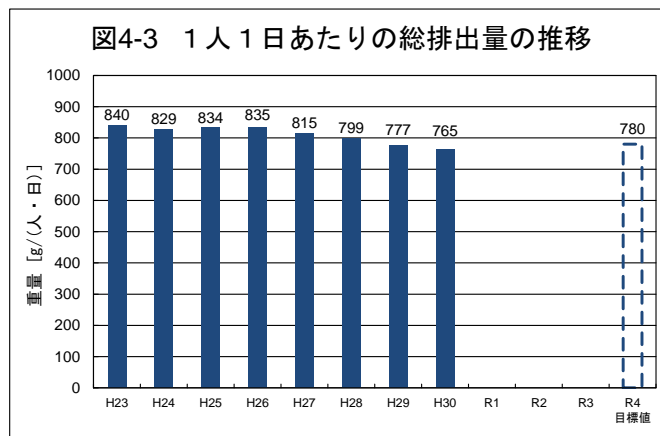
ア 埋立処分量

埋立処分量(表4-12参照)を平成29年度(2017年度)までに220t以下、令和4年度(2022年度)までにゼロにすることを目標にしている。平成30年度(2018年度)はこれまでのごみ減量等の取り組みに加え、新たに不燃残渣の資源化を行ったことにより、令和4年度(2022年度)までの埋立処分量ゼロの目標を達成している。



イ 1人1日あたりの総排出量

1人1日あたりの総排出量(総ごみ量の原単位 表4-1参照)を平成29年度(2017年度)までに810g以下、令和4年度(2022年度)までに780g以下に削減することを目標にしている。平成30年度(2018年度)実績は765gとなったことにより、令和4年度(2022年度)までの目標値を達成している。前年度比12gの減となっている主な要因は、事業系持込ごみの減少による。

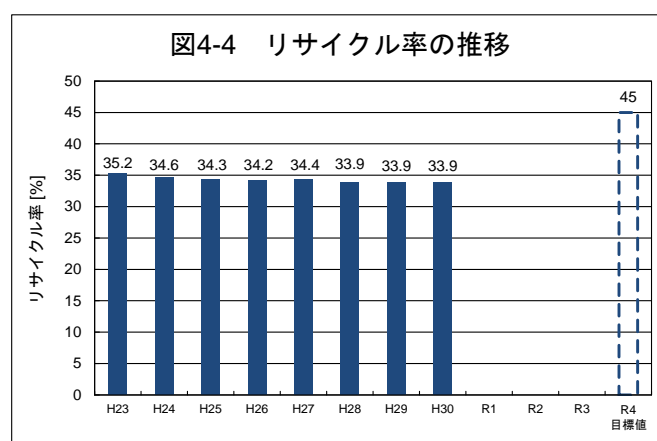


ウ リサイクル率

リサイクル率（総資源化率 図4-1 参照）を平成29年度（2017年度）までに40%以上、令和4年度（2022年度）までに45%以上に引き上げることを目標にしている。

平成30年度（2018年度）実績は33.9%であり、令和4年度（2022年度）までの目標値とは11.1%の差がある。リサイクル率は重量をもとに算出されるが、近年は、紙面購読から電子端末を利用した購読の切り替えや、容器包装の軽量化等、全国的な動向として資源物そのものが減量したことなどが影響し、リサイクル率は伸び悩んでいる。

一方、前年度と同等となっている主な要因は、上記のように資源物重量が減少していることに加え、総ごみ量も減少したことによるものと考えられる。

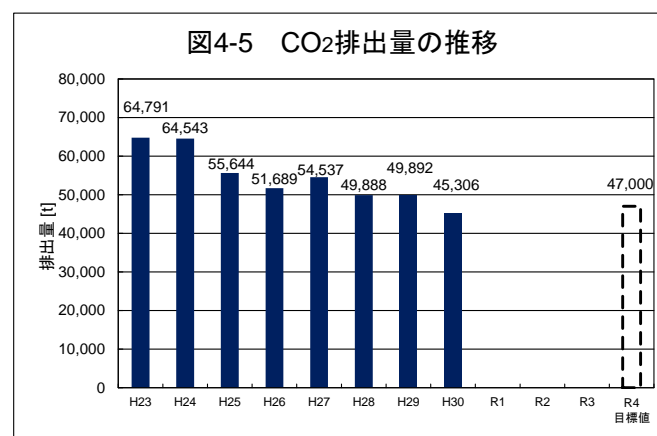


エ CO₂排出量（削減率）

CO₂排出量を平成29年度（2017年度）までに57,000t以下（削減率：12%）、令和4年度（2022年度）までに47,000t以下（削減率：27%）に引き下げることを目標にしており、平成30年度（2018年度）実績は45,306tとなった。

平成24年度（2012年度）の戸吹清掃工場の灰溶融炉停止により、電気使用量が大幅に下がるとともに売電量が増えたためCO₂排出量が減少した。

平成30年度（2018年度）は、焼却量の減少などにより前年度比9.2%の減となり、令和4年度（2022年度）の目標値を達成している。



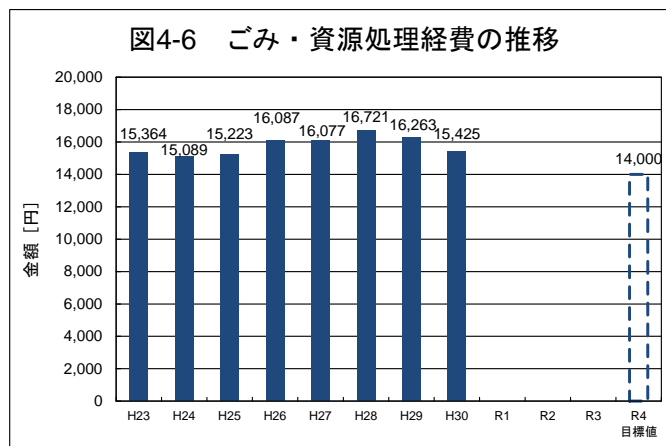
※ごみ処理施設からの排出分及び収集車からの排出分を対象とする。
 ※収集車については、直営分に加え委託分も対象とする。
 ※清掃工場における売電分を差し引いた形で、排出分を算出する。

オ ごみ・資源処理経費

ごみ・資源処理経費（表 3-4 参照）を平成 29 年度（2017 年度）までに市民 1 人あたり 14,700 円/年以下、令和 4 年度（2022 年度）までに 14,000 円/年以下に引き下げることを目標にしている。

平成 30 年度（2018 年度）実績は 15,425 円/年となり、平成 30 年度（2018 年度）までの目標値とは 1,425 円の差がある。これは、平成 24 年度（2012 年度）の戸吹清掃工場の灰溶融炉停止により、東京たま広域資源循環組合への焼却灰の搬入量が増加し、平成 26 年度（2014 年度）からのエコセメント化に係る負担金が増加したことなどが影響している。

一方、前年度比 838 円の減となっている主な要因は、職員費の減少などによる。



4 ごみ有料化後の状況

本市は、平成16年（2004年）10月から人口30万人以上の都市としては全国で初めてごみ有料化と戸別回収を同時に実施した。これを契機として市民の意識が高まり、ごみ減量への取り組みが行われたことにより、平成16年度（2004年度）から3年連続リサイクル率第1位、2年連続リデュース第1位（平成18年度（2006年度）は第2位）（人口50万人以上の都市）という成果を得ることができた。平成29年度（2017年度）については、リデュースは1位、リサイクル率は4位となった（環境省発表）。

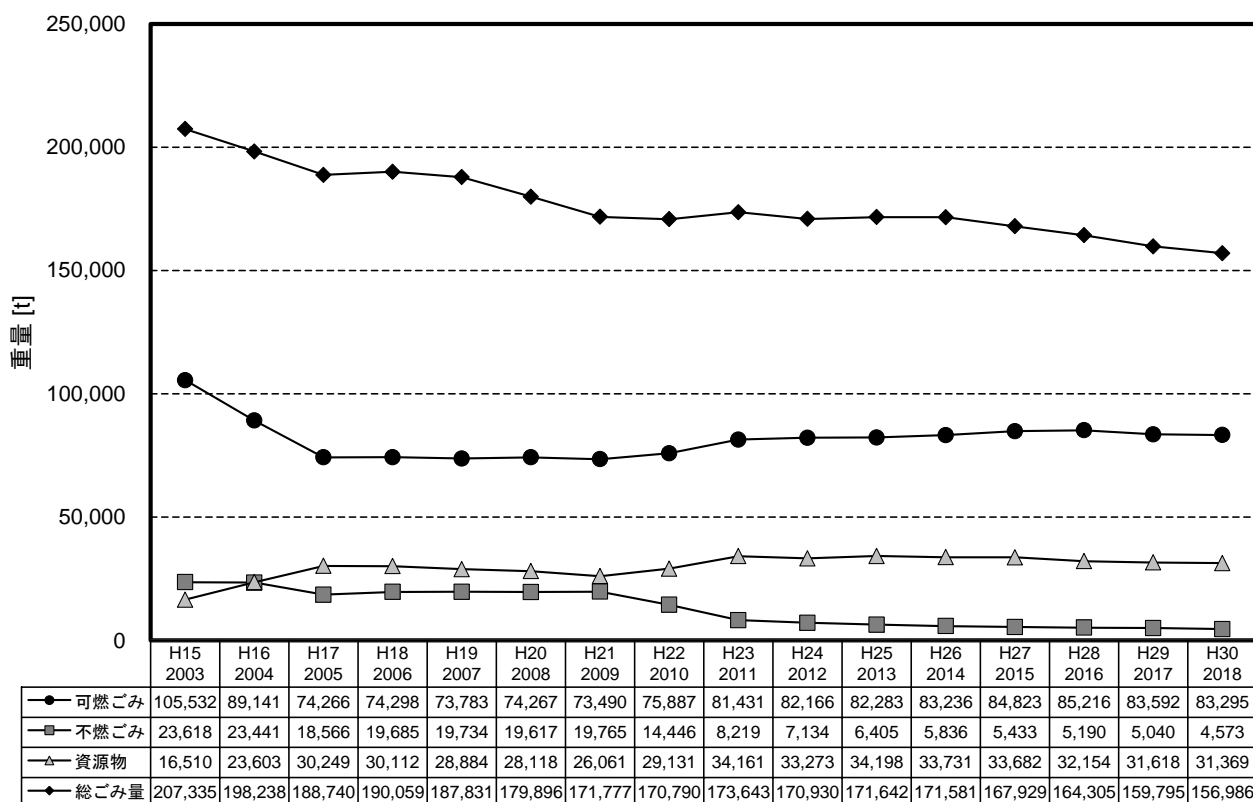
表4-14：人口50万人以上都市のリデュース（1人1日あたりの総排出量）とリサイクル率全国順位の推移【環境省発表】

年 度	H16 2004	H17 2005	H18 2006	H19 2007	H20 2008	H21 2009	H22 2010	H23 2011	H24 2012	H25 2013	H26 2014	H27 2015	H28 2016	H29 2017
リデュース	1位	1位	2位	3位	3位	2位	3位	2位	2位	2位	2位	1位	2位	1位
リサイクル率	1位	1位	1位	2位	4位	6位	4位	2位	3位	3位	4位	3位	3位	4位

※環境省発表のリサイクル率には、エコセメント化によるリサイクル量は含まれていない。

平成30年度（2018年度）は、ごみ有料化導入前の平成15年度（2003年度）と比較すると、可燃ごみの収集量（表4-1②）は22,237t、不燃ごみの収集量（表4-1③）は19,045t、可燃ごみと不燃ごみ合わせて41,282t、32.0%の減量となった。また、資源物の回収量（表4-1⑥⑫）は14,859t、90.0%増加している。

図4-7：可燃ごみ収集量、不燃ごみ収集量、資源物回収量、総ごみ量



<memo>